



“学びの森”だより

明けましておめでとうございます。温かな新年を迎えました。年頭にあたって学校教育課 荒井賢二課長よりごあいさつをいただきました。



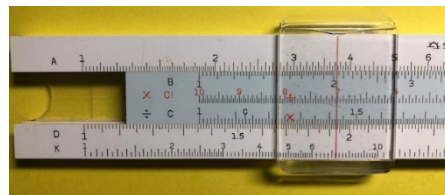
わくわく2021



明けましておめでとうございます。令和3年が、皆様にとって、そして、子どもたちにとって、素敵な1年になることを心から願っています。

さて、昨年はまさにWithコロナの1年でした。学校をはじめとして、多くの人々の生活に影響を及ぼしました。養護教諭の先生、学級担任の先生をはじめとして、学習支援員の方まで多数の方が、毎日大変な思いをされてきたことと思います。世の中は、経済政策の「GO TO キャンペーン」もその後の感染拡大へとつながり、巣ごもり生活の時間も長くなりました。私事ですが、積年の課題でもあった家の片付けに取りかかり、多くの物を処分しました。そんな中、写真にあるような物が、ひょっこりと出てきました。40年以上前の物なので、若い人には何だかわからないかもしれませんね。

これは、計算尺というものです。ケースに自分の名前があるので、使った記憶もあるのですが、使い方はすっかり忘れてしまいました。一緒にあった説明書には、中学生用と書かれているので、中学3年生の時に使ったもののようです。この計算尺は、かけ算、割り算、比例、反比例、平方、平方根、円の面積、三角関数「サイン・コサイン・タンジェント」と、今では呪文のような言葉でしかないものまで計算できるという学習用具でした。



その後、「電卓」が登場し、TVコマーシャルでも「答え一発、カシオ・ミニ〜♪」と、一大ブームを巻き起こし、計算尺は忘れ去られていく運命をたどるのですが、そろばんの時代から、計算尺、電卓と道具は進化し、ご存じのようにパソコン、タブレットの時代が到来するわけです。GIGAスクール構想による一人一台端末の実現の加速は、コロナ禍のもたらした影響の一つですが、いよいよ今年はタブレット端末が配付され、授業風景が変わることと思います。私たちの誰もが経験しなかった授業スタイルですので、戸惑いもあることでしょう。でも、時代の潮流は逆戻りしませんから、失敗を恐れることなく、まずはタブレットに触って、どんどんチャレンジしてみてください。いつの時代でも、道具が目的になることはありません。使い方には未知の領域が広がっているように思います。タブレットを使った主体的な学び、タブレットを使った協働的な学び、そして他の学校との共同授業などができたら面白いと思いませんか。それらは、子どもたちが、これから生きていく世の中で必要な知識・技能とも言えると思います。まずは、私たちの意識や発想もバージョンアップして、新しい時代をわくわく楽しみましょう。子どもたちの記憶に残る授業を一つでも二つでも、そして、同様に先生方にとっても、一緒にそんな記憶に刻める2021年になることを願っています。

今年もどうか子どもたちのために、よろしく願いいたします。

学校教育課 荒井 賢二



「森の道標」 教具の工夫編

社会的な距離についてだいぶ定着してきた今日、履修すべき単元に配慮が必要のため「出来ない」と思われがちな授業があります。そんなコロナ禍でも、1年生の今だからこそ柔道の伝統的な考え方（「精力善用」「自他共栄」※1）・礼儀を学び、基本動作を身に付けていくことに意義がある、という強い思いから授業者が前向きに構想し、教具を工夫することにより「コロナ禍でもできる授業」として、中学校1年「体育」柔道の授業を紹介します。

※1：精力善用：心身の力をもっとも有効に働かせること。自他共栄：自他共に社会全体が栄えていくこと。（相手に対して敬意、感謝することで信頼し合い助け合う心を育み、自分だけでなく他人と共に栄えあう世の中にしよとうという柔道の創始者「嘉納治五郎」の理念。）

学習内容：「フラフープ柔道で「1本」をとろう」

フラフープ柔道の方法



8方向を色分けしたことで、誰が見ても分かりやすい掲示物。審判に色で方向を伝える生徒が多くいました。

・3人1組で2人がフラフープを握り合い攻防を展開し、もう1人は審判をする。

・自分のくずしたい方向を決め、審判に伝える。

（←左図参照）

・片足立ちで行い、フラフープを離してはいけない。

・時間は30秒。

・試合開始前の「礼」を徹底する。

・審判に伝えたくずしたい方向に相手をくずせたら「1本」。

それ以外は「技あり」。攻めない行為は「指導」。

☆例えば・・・写真 右の生徒が左前隅にくずそうとしていたのなら、「1本」。左にくずそうとしていたのであれば「技あり」。



指導員より：生徒に「どんな力を付けたいのか」「何を学ばせたいのか」が、明確に見えた授業でした。フラフープの活用のみならず、本時で使われた、色分けしたくずしのための8方向の掲示物には、授業者のアイデアが溢れていました。また、本時のねらいを、それぞれの名称を覚えることではなく、相手の体をくずすための方向を意識するというところに絞った指導はたいへん有効でした。従来の柔道とは少し異なる角度でねらい達成に繋がった授業であったと感じました。

授業者より：くずす方向を「色」で伝え、組み合った「フラフープ」が動かされていく。一見、柔道の授業には見えないのですが、本時のねらいに沿って、生徒が思考を巡らせることができるようにこの授業を構想しました。振り返りでは、「得意な方向がわかった」「コツをつかめた」など前向きな言葉がありました。フラフープと掲示物で「くずしの見える化」をしたことで、「ユニバーサルデザイン」を取り入れた授業を展開できたと思います。また単元を通して、生徒は礼を重んじる柔道の精神を学び、その楽しさを味わうことができたと感じています。

丑の年は、「先を急がず、一步一步着実に物事を進めていくことが大切な年」だとか・・・。



編集・発行：「学びの森」

〒410-1102

裾野市深良 435 番地 生涯学習センター 2 階

TEL：055-995-4903

FAX：055-995-4904

<http://www10.schoolweb.ne.jp/weblog/data/2240002>